

<<<<<<<調査会ニュース>>>>>>>(2003.1.13)

調査会ニュースの送信について

平素は北朝鮮に拉致された日本人を救出するための全国協議会の活動にご協力を賜りありがとうございます。

さて、ご案内の通り去る 10 日、特定失踪者調査会が設立され救う会から特定失踪者の調査活動を分離して引き継ぐことになりました。

現在調査会の代表である荒木和博（前救う会全国協議会事務局長）と西岡力（救う会全国協議会副会長・事務局長代行）とで全国協議会の事務引き継ぎを行っております。これまでお送りしてきたニュースについては作業が終了後、引き続き終了後発信できるようになると思いますが、あわせて調査会のニュースもお送りすることに致しました。

ニュースの送信先はこれまで救う会のニュースをご購読いただいていた方に出しますが、ご不要の方はメールで御連絡いただくと幸いです。新規の申し込みは救う会のニュースと同様本名・電話番号・ご住所をお知らせいただいた方にお送りすることになります。また、今後の購読申し込み、中止、送信先変更などは救う会と調査会で別々に行われますので、ご了承下さい。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

特定失踪者問題調査会代表 荒木和博

<<<<<<<調査会ニュース>>>>>>>(2003.1.17)

園田さん御夫妻のデータについて

本日、鹿児島県で失踪された園田一さん、敏子さん夫妻のご家族がご両親の失踪について公表に踏み切りました。お二人については1月10日の第1次発表では非公開になっていましたが、調査会では10日の発表後、公開に切り替える旨の連絡を連絡をいただいております。第2次発表では公開される予定です。なお、第1次発表の中で「カップルの失踪の頻発」とあった内の1件はこの事件です。

<<<<<<<<調査会ニュース>>>>>>>>(2003.1.25)

調査会事務所設置

本会の事務所が下記に設置されました。

〒 112-0004 東京都文京区後楽 2-3-8 第 6 松屋ビル 401

Tel 03-5684-5058 Fax 03-5684-5059 (J R ・ 地下鉄飯田橋駅徒歩 2 分)

事務所自体は先週末契約を済ませておりましたが昨日電話の設置が終了しましたのでお知らせ申し上げます。まだあまり事務所らしくなっていませんが、活動の方は大急ぎで進めなければなりませんので事務所開きなどのセレモニーも行いません。今後ともご協力をよろしくお願いします。

事務所の第 1 号の来訪者は安明進氏でした。安氏は調査会が発足し事務所ができたことに大変喜んでいました。この場でこれまで見せていなかった特定失踪者の写真を見てもらいましたが、それについては記憶がないとのことでした。また、先日来話題になっている松本賢一さんについて確認したところ、安明進氏の見た人の推定年齢と松本さんの年齢に多少差があることが分かりました。この件についてはさらに調査を続ける予定です。

第 2 次リスト発表 2 月 10 日を予定

調査会では 24 日夜、理事会を開催しました。1 月 10 日に行った第 1 次の特定失踪者リスト発表の後、新たにご家族から寄せられた情報及び第 1 次で非公開だった方のうち、後にご家族が公開を希望された方についてのリストを 2 月 10 日(月)午後、記者会見を開いて公開します(場所や詳しい時間は未定)。なお、調査会役員は 12 日に関係官庁を回り特定失踪者問題について取り組みを強化することなどを要請する予定です(先方との調整は今後行いますので詳細は未定です)。

なお、拉致問題に関心を示し活動して下さっている弁護士グループの方々から、川人博(かわひと・ひろし)弁護士と藤野義昭弁護士(救う会北海道会長)のお二人に理事として加わっていただくことになりました。

<<<<<<<調査会ニュース>>>>>>>>(2003.2.2)

報道関係各位 記者会見のお知らせ

以下の通り記者会見を行います。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

1、日時 2月10日(月)

2、場所 UIゼンセン会館

千代田区九段南4-8-16 電話 03-3288-3549

(JR・営団地下鉄有楽町線・南北線・都営地下鉄新宿線市谷駅下車)

JR市ヶ谷駅から靖国通りを九段下方向に向かい右側三菱銀行の角を右に入る

3、内容 1：30～2：00 救う会・家族会記者会見

本日から9日まで訪米する救う会島田洋一幹事(福井県立大助教授)と
福井義高幹事(青山学院大助教授)の訪米報告。

2：00～3：00 調査会記者会見

特定失踪者第2次リストの発表

救う会・家族会記者会見については救う会全国協議会(03-3946-5780)にお問い合わせ下さい。

リスト発表は概ね1月10日と同様に行いますが、写真の撮影などについて、現在警視庁記者クラブ幹事社と調整中です。追って御連絡します。

かである。

指摘するまでもなく、失踪者を抱えたご家族の苦しみは想像を絶するものがある。仮に北朝鮮による拉致ではなくても、何らかの事件に巻き込まれた可能性もある。政府としてそれらを放置したままにしておくことは許されざるものである。

北朝鮮による拉致は、個人の人権を蹂躪する許し難い犯罪であり、また国家主権の侵害でもある。そして、この北朝鮮による拉致問題の解決は、東アジアにおけるわが国の平和と安全を確保していく上で、最大の課題の一つとなっている。私たちはこの問題の全面的な解決が無い限り、わが国の自由と民主主義、そして平和と安全は確保し得ないと考える。よって、私たちは、国民の絶大な支持と期待をもとに、政府当局との密接な連携と協力関係を図りながら、北朝鮮による拉致問題の全容を解明とその解決を図らなくてはならないと考えるものである。したがって、ここに政府関係機関の一層の奮起を求めるとともに、私たちの調査活動への協力を要請するものである。

要請事項

1. 政府関係当局において、本調査会がリストアップした事案について速やかに再調査をされたい。
2. 再調査の結果を速やかに本調査会に報告されたい。尚、その際には捜査上の秘密について、本調査会は最大限の配慮を行なうものである。
3. 再調査の結果を、可能な限り国民に公開されたい。
4. 本調査会が行なう調査活動について関係当局において、できる限りの協力をされたい。
5. 政府関係当局による再調査の結果、「拉致」との確証が得られた場合、速やかに「認定」と公開、ならびに日朝交渉の俎上に上らせること。
6. 特定失踪者問題の全容解明に向けて、政府関係当局が密接なる連携を図りつつ、民間団体との協力のもとで調査が進められるような新たな調査機関の設立を早急に進めること。
7. 朝鮮半島の有事が想定される今日、在外邦人の救出、あるいはいわゆる「北朝鮮日本人妻あるいは夫」そして「脱北者」などへの人道的配慮と支援措置を、速やかに検討すること。

以上

尚、本要請に対して、速やかに関係当局において調整された上、2月中を目途に本調査会宛に回答を願います。その結果を記者会見にて発表する予定です。

<<<<<<<調査会ニュース>>>>>>>(2003.2.14)

Bさん(「調査会ニュース」配信当時は実名)国内での健在を確認

第二次発表 44名の内すでにAさんの健在が確認されましたが、本日兵庫県のBさんについて、国内での健在が確認されました。これはご本人からご家族に連絡があったもので、すでに直接ご家族が面会し確認しています。関係各位のご協力に心より御礼申し上げます。

第一次の方も含め、国内におられる方の情報をご存知の方はぜひご連絡願います。たとえ会うことができない事情があったとしても、元気であることが分かればご家族の精神的負担は大幅に減らすことができます。

それにしても、この調子で全員が国内で健在で、ご家族のもとに戻ってくればと思うのですが……。

い事案があると見て、現在、警視庁から各都道府県警察に指示し、ご家族その他の関係者からの事情聴取、付近の聞き込み等の裏付け捜査、国内外の関係各機関との情報交換など、鋭意関連情報の収集に努めているところです。

また、海上保安庁においては、調査会からの要請を受け、昨年 10 月に管区海上保安部に設置した「拉致容疑事案調査室」において、関係情報の収集等所要の調査を鋭意進めています。

さらに公安調査庁においても、全国の公安調査局、事務所における調査活動を通じて、関係者からの情報入手などの積極的に取り組んでいるところです。

なお、調査会より提供を受けた特定失踪者の一部の事案については、警察に対して、行方不明者としての届け出がなされていないことが判明しています。行方不明者としての届け出がなされれば、全国の都道府県警察における警察活動を通じて、その所在に関する情報を収集することが可能となるため、現在、ご家族等に警察への届け出を働き掛けています。

また、調査会による失踪者リストの公表以降、リスト中の行方不明者の所在が判明するケースが見受けられるところですが、今後、同種事案が明らかになった場合は、警察をはじめとする関係省庁に対する情報提供をお願いします。

他方、調査会に対する、警察、海上保安庁などにおける捜査や調査に関しての情報提供については、行方不明者本人やご家族のほか、事情聴取にご協力いただいた方々も含めた関係者のプライバシー保護の観点や、捜査や調査上の秘密の保持の観点から、慎重に検討すべきものと考えています。行方不明者のご家族に対しては、その立場や心情に配慮しつつ、捜査の進捗状況など捜査に関する情報についても、支障がない限り提供していくべきものと考えているところであり、こうした形での情報提供は今後も引き続き行ってまいります。

拉致の認定と公開、日朝交渉の俎上に上らせることについて（要請事項 5）

政府関係機関による再調査・捜査の結果、北朝鮮当局による拉致行為があったことを確認するに足る情報が整理された場合には、「北朝鮮当局によって拉致された被害者等の支援に関する法律」に基づき、内閣総理大臣が関係行政機関の長と協議の上、拉致被害者に該当すると判断される者について速やかに認定を行うとともに、日朝交渉に取り上げていく考えです。

なお、認定結果の公表については、拉致被害者本人やご家族等関係者のプライバシーに配慮する必要がありますが、ご家族の了解が得られる場合には、被害者の氏名の公開を検討してまいります。

政府関係機関の連携、新たな調査機関の設立について（要請事項 6）

北朝鮮による日本人拉致容疑事案の全容解明に向けての捜査や調査を進めていく上で、国内の関係機関との連携は、事案の性質上、必要不可欠と考えており、こうした観点から、これまでも関係省庁間で密接な情報交換を行ってきたところです。

具体例を示すと、

- ・警察庁と海上保安庁は、国の機関の間で、不審船情報、海上遭難事案、沿岸での行方不明事案などに関する情報交換を行っていることに加え、都道府県警察と核管区海上保安本部等においても、必要に応じて情報交換を行っている。
- ・警察庁と外務省は、10件15名の拉致容疑事案の捜査に関する緊密な連携に加え、警察が拉致の可能性を排除できないとみている事案に関しても、警察より所要の情報提供を行ってきている。
- ・警察庁と公安調査庁は、双方が収集・分析した日本人拉致容疑事案に関する種々の具体的な情報につき、その交換、共有を行っている。
- ・内閣官房と関係省庁は、内閣官房に直接連絡、提供のあった行方不明者の方々の情報を逐一関係省庁に提供するとともに、本事案の円滑な調査、捜査に資するため、必要に応じて内閣官房拉致被害者・家族支援室が中心となって会議を開催する等の連絡・調整を行っている。

今回の要請を踏まえ、こうした関係機関の連携については、引き続きその強化を図ってまいります。

他方、新たな調査機関の設置の是非については、失踪者の調査・捜索は一義的にはそのための組織・人員・ノウハウを有する捜査・調査機関が密接な連携の下に行うことが最も適切であると考えます。今後とも警察庁、海上保安庁を始めとする捜査・調査関係機関が緊密な連携を図りつつ、全力を挙げて調査・捜査を行うとともに、北朝鮮側から事実関係の解明を含め前向きな対応を引き出していく所存です。

なお、政府としては、「日朝国交正常化交渉に関する関係閣僚会議」の下に拉致問題に関する専門幹事会を置き、内閣官房お呼び関係省庁間の緊密な連携を図りつつ、拉致問題の解決に全力をあげているところですが、今後とも必要な施策の調整については、専門幹事会の場を活用し遺漏なきを期してまいります。

在外邦人の救出、「北朝鮮日本人妻あるいは夫」、「脱北者」などへの人道的配慮と支援措置について（要請事項7）

海外における邦人の生命及び身体の保護その他の安全に関することは、日本政府の責務であり、緊急事態発生時の邦人退避を含む邦人保護措置についても、日本政府として従来より検討してきているところです。また、いわゆる脱北者であるか否かに関わらず、日本国籍を有する者が我が国在外公館に庇護を求めてきた場合には、当該者を然るべく保護し、その安全を図ることは、政府として当然の責務です。

ご指摘の脱北者への対応に関する問題、とりわけ日本国籍を有する者やいわゆる元在日朝鮮人への支援の在り方については、国内に種々の議論があることは承知していますが、これらの問題については、関係者の安全、人道上の配慮等種々の観点を総合的に勘案しながら、真剣に検討を重ねて行く考えです。

以上

安明進氏、加藤久美子さんを目撃したと証言

元亡命工作員の安明進氏は2月10日の第2次発表で出た加藤久美子さん（昭和45年北

九州市で失踪)を見たと言証言しました。

10日の時点で日本のマスコミからの情報を受け安氏は見たと言っていました。調査会から別の写真2枚を送ってコメントを求めたところ、「確信を強くした」との回答を寄せました。これについてはさらに情報を整理した上、あらためてご連絡します。

<<<<<<<<<調査会ニュース>>>>>>>>(2003.3.1)

偽装工作について

荒木和博

本日、昭和 59 年に山梨で失踪した山本美保さんのお母さん、妹さんと昭和 60 年に兵庫で失踪した秋田美輪さんのお父さんが都内で会い、それぞれの失踪状況などについて情報の交換を行いました。救う会山梨の山下滋夫会長と調査会から荒木が同席しました（この件に関しては荒木の独断で事前に報道関係者にはお知らせしておりませんでした。ご了承下さい）。

二つの事件は 1 年半の間がありますが、同時期に同年齢の女性が似たような失踪をし、遺留品がどちらも日本海側の海岸にあったという事件です。いろいろと状況について話していて感じたのですが、これが拉致事件だと想定した場合、遺留品のバックはどちらも自殺を見せかけた偽装工作である可能性が強いということです。秋田さんのバックは失踪翌日、山本さんのバックは 4 日後に発見されていますが、このバックの発見によって山本さんが失踪した甲府市や秋田さんが最後に目撃されている神戸市の大学周辺については家族・関係者や警察の関心は離れていたことが分かりました。遺留品の置き方は極めて不自然であり、拉致であってもここから拉致されたのではないと思われま

す。拉致に関わる遺留品という意味では分かっている限りで一番古いのは寺越事件のときの乗船していた清丸と、その後発見された寺越武志さんの学生服です。学生服は拉致の数日後に波に漂っていたのが発見されていますが、これについて母親の友枝さんが後に武志さんに平壤で聞いたところ、「ああ、暑かったので捨てましたよ」と言ったそうです。5 月の夜の海で、しかも貴重な学生服を捨てるはずはありません。これも、海難事故を装うための偽装工作でしょう。地村さん夫妻の拉致事件で小浜公園に置かれていた地村さんの軽トラックもしく、このような偽装工作はさまざまな形で行われたと思われま

<<<<<<<<調査会ニュース>>>>>>>>(2003.3.19)

「法律家の会」設立

昨日（18日）東京の弁護士会館で「北朝鮮による拉致被害者の救出にとりくむ法律家の会」が設立されました。これは拉致問題に関心を持つ有志の弁護士が結成したもので、これまでも個々に協力してきた方々はおり、日弁連も家族会から事情聴取を行い政府に要請書を提出したことはありましたが、救出のための法律家の組織ができるのはこれが初めてであり、今後の行動が期待されています。

当日は北海道・大阪もふくめ10人の弁護士が集まり、今後の活動について議論を行いました。増元照明事務局次長（調査会理事）、荒木調査会代表、真鍋専務理事も参加し、訪米の報告、調査会の活動についての説明などを行いました。

法律家の会では代表幹事に木村晋介・藤野義昭（救う会北海道代表・調査会理事）両弁護士を選任、幹事には川人博、斎藤健児両弁護士に加え大阪ないし兵庫の弁護士を加え、さらに必要に応じて補充することとなりました。また、事務局長は斎藤幹事が就任しました。

今後法律家の会では(1) 拉致被害者の救出およびその家族の支援のために必要な諸行動への法律家としての参加、(2) 特定失踪者問題調査会と連携した失踪者の調査活動への参加、(3) 拉致問題解決のために求められる刑事告訴、訴えの提起等の法的諸活動への参加、(4) その他拉致問題の解決に役立つ情報交換、言論、集会の開催及び制度的提言等の活動、をすすめていく予定で、調査会としても特定失踪者調査活動の進展にも大きく寄与するものと期待しています。

～ 150 の施設があった。場所は平壤北方、順安空港から平壤市内に向かう道から 1 キロも離れていない。

安氏はこの日、退屈なので練習用の通信器材を持ってきて練習しようと、約 6 キロ離れた学校（金正日政治軍事大学）まで歩いて行った。途中病院の道を通っていくと見つかる可能性があると思い、道のないところを通って行った。そこから通常の道を渡って政治軍事大学の方に行こうとしたとき、木の陰にいた古川さんと思われる女性に見られた。あとで通報されるといけないと思い、通報しないように頼もうと思って後ろをつけて行って声をかけた。向き合っていたのは 5 分位だったと記憶している。自分の言葉にうなずいたりしていたが、朝鮮語を理解していないようにも見えた。自分が姿を記憶していたのは金正日政治軍事大学にいたのがほとんど男性で、女性に対しては関心が強かったから。

その女性は入院患者が着る服を着ていた。病院の夕食時間は 7 ～ 8 時だから、おそらく中央病棟に治療に来た帰りではないかと思う。食堂は共通だが食べる場所は厳格に区別されており、お互いが顔を合わせることはない。日本人のいた病棟と自分のいた病棟の距離は 200 ～ 300 メートルで、建物は見えたが人は見えなかった。道は大きく迂回して通っていた。後で看護婦に聞いたら、彼女が日本人で、胃潰瘍で入院していると言っていた。日本人化のための教員であれば、学生に普段接しているから対応にはなれているはずだが、そうは見えなかった。北朝鮮では 60 年代から 70 年代にかけて、「日本革命」をめざしたことがあり、「日本人村」を作ったことがあった。そこにいたのかも知れない。

写真よりも、お姉さんと直接会って確信を持った。あいさつしたときのお姉さんの笑顔と、通報しないように頼んだとき古川さんと思われる女性が見せた笑顔がそっくりだった。

加藤久美子さん（昭和 23-1948 年生・昭和 45-1970 年 8 月 8 日失踪）

1988 年、89 年、90 年、金正日政治軍事大学内で横田めぐみさんと一緒にいた女性だと確信する。金正日政治軍事大学の講堂付近、バス乗り場などで見た。横田めぐみさんと一緒に教官用通路を通って食堂に向かって歩いているところも見た。

当時年齢が 30 代中盤以後に見え、パーマをかけた髪で特別な印象の着衣はなかったものと記憶する。

それより正確に言えば当時彼女達を見たとき写真の女性よりは横田めぐみさんにより関心があり、彼女だけを見ていたので写真の女性については特別な関心はなかった。しかし横田めぐみさんに関心を持って眺めるとき十余回も横田めぐみさんと並んで座って話をしていたのが記憶に残っている。当時彼女は 158 センチ以下の身長だったと記憶している。彼女の職業はもちろん横田めぐみさんをはじめとする大学内の他の日本人と同様で対日工作員に日本語を教える日本語教官だった。

田中実さん（昭和 24-1949 年生・昭和 53-1978 年 6 月 6 日ウィーンに向かって出国し
行方不明）（田中さんについては本日＜注・31 日＞確認）

金正日政治軍事大学にいた日本人男性の一人。当時 43 ～ 44 歳だが髪の毛は真っ白だった。若干頭髪が後退しており、それをカバーするような髪形になっていた。写真と比べると白髪なのと若干頬がこけているがこの顔だった。身長は 165 ～ 167 センチより低かったと思う。このことについては以前テレビの取材を受けたときに伝えたが、相手は「調べて

みる」と言ったきりでその後の対応はなかった。

金正日政治軍事大学で安氏が見た日本人は男性 6 名、女性 5 名の合計 11 名（古川さんは 915 病院での目撃なので含まれない）。その内訳は次の通り。

< 男性 >

蓮池薫・市川修一・田中実と思われる男性・(似顔絵が発表されている北海道の男性)
・(身長 167 ~ 8 センチの男性)・(不明)

< 女性 >

横田めぐみ・増元るみ子・加藤久美子 (一番小柄だった)・(身長 156 ~ 8 センチ程度の女性)・(身長 156 ~ 8 センチ程度の女性)

この他安氏が似た人物を北朝鮮で見た人に松本賢一さん (昭和 11-1936 年 6 月 24 日生・昭和 45-1970 年 6 月失踪) と山田建治さん (昭和 24-1949 年 1 月 22 日生・昭和 54-1979 年 12 月 18 日失踪) がいるが、松本賢一さんの場合は安氏証言の人物と年齢が 10 歳程度合わず、山田さんの場合は身長が約 20 センチ異なる。

<<<<<<<調査会ニュース>>>>>>>(2003.4.7)

参考情報

連合（日本労働組合総連合会）は本日付けで各地方連合に以下の要請を行いました。現在連合を構成する労働組合の中には拉致問題に熱心な組織と消極的な組織が混在していますが、連合全体として拉致問題に積極的になっていくことは救出運動全体の流れの上でも大変プラスになりますし、消極的な労組の中にいると思われる北朝鮮の工作活動に協力してきた勢力の実態を明らかにしていく（この連合の方針に対する反発の度合いによってある程度関与が推定されると思われるため）意味でも期待が持たれています。

連合発 第 07-01288 号 2003 年 4 月 7 日

地方連合会事務局長殿

日本労働組合総連合会

事務局長 草野忠義

総合組織局長 阿部道郎

連合と朝鮮総連との関係についての要請

03 春季生活闘争の取り組み、大変ごくろうさまです。

さて北朝鮮の核開発や日本人拉致事件、ミサイル問題などで日朝関係はきわめて厳しい状況にあります。こうした問題の解決をはかるため連合は3月10日に開催した臨時三役会で北朝鮮問題についての声明を発表し、在日本朝鮮人総連合会中央本部に対し面会を申し入れました。朝鮮総連を申し入れ先と判断した理由は、東京都が1972年以来、朝鮮総連を北朝鮮の「外交機関」と認めてウィーン条約に基づき税を免除していること、朝鮮総連自身も公館としての役割を果たしていることと認めていることからです。しかし、総連側は(1)在日同胞の組織であり、北朝鮮へのビザ発給はしているが北朝鮮の公館ではない(2)連合声明とは見解の大きな相違がある、との理由で要請そのものを拒否しました。一方、朝鮮総連との関係では現在、いくつかの地方連合会が、相互交流や印刷物の購入などを行っています。連合は、朝鮮総連に対して統一した対応が必要との判断から、4月7日の常任役員会で以下の通り確認しました。つきましては関係地方連合会におかれましては、対応をよろしくお願いいたします。

記

1. 北朝鮮による拉致事件や核兵器開発などの問題が解決しておらず、連合は北朝鮮及び深い関係にある朝鮮総連とは、交流などの関係は持たない。
2. 連合は従来から朝鮮総連とは一切の関わりを持っていない。朝鮮総連と関係がある地方連合会においても、中央に合わせ、当面交流を見合わせるよう要請する。

以上

<参考>

連合発 談話 第 07-00090 号 2003 年 3 月 10 日

各構成組織 事務局長・書記長

各地方連合会 事務局長 様

日本労働組合総連合会
事務局長 草野忠義

北朝鮮問題に対する声明の発表について

連合は昨年 10 月 24 日に「北朝鮮の核兵器開発に断固抗議し、即時中止を求める声明」を、原水禁および核禁会議とともに発表し、また、10 月 28 日には「日朝国交正常化交渉にあたっての連合事務局長談話」を發し、さらに、今年に入ってから 1 月 15 日に、「北朝鮮の NPT 脱退宣言に断固抗議し、即時撤回を求める声明」を同じく 3 組織連名で発表しました。その後、北朝鮮は、原子爆弾製造に必要なプルトニウムの抽出が可能な黒鉛減速炉を再稼働させ、さらには地对艦ミサイルの発射実験を示唆しています。こうした情勢の変化もあり国民の不安は増大しており、連合として改めて次のとおり声明を発表することを確認しました。

記

2003 年 3 月 10 日

北朝鮮問題に対する声明

日本労働組合総連合会

2002 年 10 月、北朝鮮は、1994 年に核開発の凍結を約束した米朝枠組み合意に反し、平壤で行った米朝高官会議の場で、核兵器用の濃縮ウランの開発を秘密裏に進めていることを認めた。また、2003 年 1 月 10 日には核拡散防止条約（NPT）からの脱退を宣言した。

他方、金正日総書記は、2002 年 9 月 17 日の小泉首相との会談の中で、北朝鮮による日本人拉致の事実を認めた。

連合は、唯一の被爆国民の立場から、核兵器・大量破壊兵器はいかなる国であろうと、いかなる理由があろうと認めないということを確認している。さらに、拉致問題は人権侵害、国家主権侵害の最たるものとする。

したがって、連合は以下の通り決議し、関係各国政府に対して働きかけていく。

- (1) 北朝鮮の核拡散防止条約（NPT）からの脱退は、NPT 体制を弱体化させ、朝鮮半島における非核化の流れに逆行し、北東アジアにおける緊張を極度に高めるものであり、断じて許すことはできない。北朝鮮は直ちに NPT に復帰するとともに、核兵器開発を中止するべきである。
- (2) 日本政府は、拉致問題、核開発問題等の解決無しには日朝国交正常化および経済協力はあり得ないとの態度を明確にし、主体的に対応していくべきである。

核開発問題については、国連安全保障理事会に付託され たが、最大の関係国の一つとして米・韓と密接な連携をとり、中・口の協力も求めつつ、核問題の平和的解決を目指し、

積極的な国連外交を展開すべきである。

拉致問題については、拉致被害者の全面的解放と永住帰国や補償問題をはじめ、完全解決に向けた最大限の努力を行うべきである。

以上

権氏に限らず韓国国内に日本人拉致被害者の情報を持っている亡命者は相当数存在すると言われております。また、単に拉致被害者の情報だけでなく、北朝鮮のどこにどのような施設があるかなどの情報を集積しておくことは北朝鮮の体制崩壊などの混乱時期に被害者を救出するため、あるいは核問題をふくめ日本の安全保障上も極めて緊要であると考えます。

かつて阿南惟茂外務省アジア局長（当時）が「亡命者の証言は信用できない」と言って物議を醸したことがありますが、その亡命者証言は昨年北朝鮮の最高指導者金正日の発言によって裏付けられました。また、曾我ひとみさん母子の失踪を拉致と認識しなかったことは本来関係機関が責任を問われてしかるべき問題であります。政府におかれましては「いかにすれば拉致被害者を特定し、救出できるか」という視点から積極的な情報収集を行われ、可能な限りその情報を国民、とりわけ関係者家族に開示していただきますよう、強く求める次第です。私共と致しましても、微力ながら一層の情報の収集・分析に努力することをお誓い申し上げ、要請に代えさせていただきます。

敬具

<<<<<<<<調査会ニュース>>>>>>>>(2003.4.29)

新ポスター 5月上旬完成

先月作成した失踪者ポスターは 5000 枚印刷したものがほぼなくなりました。関係各位のご協力に感謝申し上げます。現在その後の追加分や非公開から公開に切り替えた方のデータを追加して一回り大きくしたものを製作中です。これは5月上旬に完成します。今回は 10000 枚印刷し、内閣府支援室のご協力で全自治体にお送りする予定です。また、一般にも前のものと同様 1 枚 100 円（送料調査会負担）で販売します。頒布にご協力をお願いします。これにあわせ CS 放送の内容も更新される予定です。

情報提供を呼びかけるピラ原本作成

調査の進行に伴い、拉致事件の日本国内協力者にはいわゆる在日朝鮮人の「土台人」のみならず、日本人が介在している可能性が濃くなって来ています。これに対応して国内協力者（北朝鮮から浸透している作業員も含む）に対する情報提供呼びかけのピラの原稿を作成しました。PDF ファイルですので Mac でも Windows でも開けます（Acrobat Reader 5.0 が必要 以前のバージョンでは文字化けします）。ご利用いただける方は下記のところからダウンロードして印刷し、お使いいただけると幸いです。

<http://www.asahi-net.or.jp/?lj7k-ark/paper.pdf>

なお、朝鮮語の部分は次のように記載されています。

今語れば英雄であり、すべてが終わった後に語ればただの犯罪者の自白である。

今になってもあなたは何の罪もない外国人を拉致し朝鮮人民自身を飢え死にさせている独裁者金正日を支持し民族の反逆者になるのを望むのか？

拉致被害者がすべて救出される日は 2000 万共和国人民も救出することのできる日である。われわれは手を携え共に努力しよう。解放の日は決して遠くない。

北朝鮮工作活動に関与した人、関与した人を知っている人は日本警察や言論機関、私ども調査会に連絡して下さい。日本には現時点でスパイ行為をしたという理由で処罰する法律はありません。重罰を心配する必要はありません。あなたの英雄的な行動は拉致された日本人や南朝鮮人民の救出、北の地で喘いでいる人民の解放のために必ず寄与します。

報道関係各位 失踪者ご家族に関する取材について

第 5 回国民大集会の翌日午前中、調査会では主に国民大集会に参加される失踪者ご家族を対象とした説明会を行います。これは調査会の活動や政府の対応などについて説明するもので、非公開の方々のご家族も参加されるため、一切取材はできませんが、説明会終了後、希望するご家族が個別の取材を受ける場を設定します。

- 1、日時 5月8日(木) 正午～午後1時(若干開始・終了時間が前後する可能性がありますのでご了承下さい)
- 2、場所 ホテル三田会館2階富士の間(港区芝2-20 TEL 03-3453-6601)
- 3、参加家族 未定

当日説明会に参加されたご家族の中で取材を受けることを了承された方のみが富士の間で個別に取材を受ける形となります。いわゆる記者会見ではなく、参加されたご家族が富士の間に待機し、それぞれが取材をしていただくようになりますのでご了承下さい。また、こちらからは公開の方でも取材を受けるよう強制することはありませんので、場合によっては参加する家族がほとんどないという可能性もあり得ます。予めご了承下さい。

<<<<<<<<<調査会ニュース>>>>>>>>(2003.5.6)

報道関係者各位 8日の取材について

8日の失踪者ご家族の取材に関し、若干誤解が生じているようですので、確認の意味を込めて再度お知らせしておきます。

本日開催される国民大集会には当調査会が発表した方々をはじめ、多数の失踪者のご家族が参加されます。しかし、これらご家族は一般の参加者であり、国民大集会では失踪者に関しては調査会代表荒木のスピーチがあるだけです（物理的にもそれ以上の対応は不可能です）。

そこで、特に地方から上京されるご家族のために翌8日午前9時～12時（予定）に完全非公開の説明会を行うことになりました。ここでは調査会の活動や政府の対応についてご説明をするほか、ご家族からのご意見なども伺う予定です。参加者は今のところご家族及び調査会役員、法律家の会役員など合計100人余となる予定です。

この集会は非公開の失踪者のご家族も参加されるため、頭撮りも含めて一切取材はできません。そこで、報道関係の皆さんへは12時～13時の予定でご家族が個別に取材をお受けする時間を設けることになりました。この場所は説明会の会場（友愛会館）ではなく、隣のホテル三田会館2階富士の間です。記者会見ではなく、あくまで個別取材です。一部にここで新たな特定失踪者リストの発表をするのではないかとの情報が流れていますが、そのようなことは一切ありません。

ご家族の個別取材に先立ち、調査会から説明会の内容についてブリーフィングを行います。その上で取材対応を了解したご家族に入ってください、それぞれの方に取材をしていただきます。これはマイクを前にして一家族ずつお話しするのではなく、ご家族にはそれぞれ着席していただき、報道の方は希望されるご家族の前に行って取材していただく形となります。どのご家族が取材に対応されるかについては一切集約をしておりません。事前にもお知らせしておらず、当日説明してご了解を得られる方に出ていただくこととなりますのでご了承下さい。

このような取材対応の試みも初めてのことであり、若干の混乱も予想されます。また、帰国した5人の会見も13時30分から予定されていますので、ご迷惑をおかけするかと思いますが、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

<<<<<<<調査会ニュース>>>>>>>(2003.5.21)

訃報

昭和 59 年 6 月に行方不明になった甲府市の山本美保さんのご尊父、山本光男様が
昨日(5月19日)、脳腫瘍のため逝去されました。享年 68 歳。
慎んでご冥福をお祈り申し上げます。

通夜・葬儀の日程は次の通りです。

通夜 21 日(水) 19:00 ~

葬儀・告別式 22 日(木) 12:00 ~

式場 甲府市塩部 4-10-10 甲府シティーホール

喪主 山本文子様(奥様)

なお、ご家族への直接の取材等はお控え下さいますようお願い致します。

<<<<<<<調査会ニュース>>>>>>>>(2003.5.30)

現時点での失踪者情報を公開

調査会では本日東京港区の三田会館で追加の失踪者情報に関し説明会を開催し失踪者の情報を公開しました。

公開した資料は当調査会にご家族等が失踪者の調査以来を出されている方々で公開を了解された方(ただし特定失踪者として発表済みの人を除く)61人分の資料です(このメールに Excel のファイルで添付。説明会で配付した資料にはすでにデータを発表済みの2名が入っており、逆に発表対象者のうち2人が欠落しておりました。このファイルでは訂正してあります)。これは特定失踪者の3次リストではなく、あくまで「失踪者」のリストですのでご注意ください。ただし、どのケースも拉致の可能性を完全に否定することはできません。

また、元の資料の記載事項はまちまちなため記載してある内容も量的に差がありますが、記載事項の量と拉致の可能性が比例するわけではありません。

説明会で配付した資料にはご家族の連絡先を記載してありますが、このニュースで添付したファイルからは除いてあります。取材等で必要な場合はあらためて個別にメールでお送りしますので下記の事項を記入の上このアドレスにメールをお送りください。

メールのタイトル「失踪者ファイル希望」

本文に(1)名前 (2)住所 (3)電話番号 (4)使用目的

を記載して下さい。返信メールに添付して送ります。

ご家族は長年苦しんでおられます。取材等に当たってはご家族に対し十分な配慮をして下さいますようお願い申し上げます。

<<<<<<<調査会ニュース>>>>>>>(2003.6.2)

失踪者リストの追加・訂正

公開希望の方で 30 日に発表されたリストから漏れていた方がありました。お詫びして追加致します。なお、この樹下さんも他の方々と同様拉致の可能性を完全には排除できないという段階ですので予めご理解下さい。

氏名 樹下秋男(きのした あきお)

性別 男性

生年月日 昭和 11 年(1936) 10 月 8 日

失踪日 昭和 30 年(1955) 4 月 7 日 当時 18 歳

当時の住所 京都市内

当時の職業 製麺所の住み込み店員

身長 164 ~ 5 センチ位

失踪の状況 勤務先に「実家に行ってくる」との書き置きを残して失踪。実際には実家には行っていない。以後全く情報なし。

報道関係者等でご家族とコンタクトしたい方、写真のご入り用な方には連絡先をお知らせしますのでお名前・所属・使用目的を記載の上「樹下さん連絡先通知希望」「樹下さん写真送信希望」と書いてこのメールへの返信でご連絡下さい。

<<<<<<<<調査会ニュース>>>>>>>(2003.6.7)

加藤久美子さん、古川了子さんの対応について調査会から救う会に要請

本日午後、東京港区の友愛会館で開催された救う会全国協議会幹事会で、荒木代表より佐藤勝巳全国協議会会長に下記の要請を行いました。これを受けて幹事会では2人を拉致被害者のリストに加えることを決定しましたのでお知らせします。

平成 15 年 6 月 7 日

北朝鮮に拉致された日本人を
救出するための全国協議会
会長 佐藤勝巳殿

特定失踪者問題調査会
代表 荒木和博

加藤久美子さん、古川了子さんの拉致被害者としての対応のお願いについて

拝啓、事態急進展の中、皆様の精力的な活動に心より敬意を表します。

さて、私共は拉致の可能性のある失踪事件の調査を続ける過程で拉致事件が極めて広範囲に行われたものであることを実感しており、現在法律家の会とも連携しながら一刻も早い真相究明を行うべく微力ながら努力を続けております。現在まで私共が入手した失踪者情報は人数にして330人余にのぼり、このうち140人余が公開されております。

私どもが失踪者として公開している方々のうち、ご案内の通り昭和45年に北九州市で失踪した加藤久美子さんと昭和48年に市原市で失踪した古川了子さんについては安明進氏の詳細な証言があり、拉致事件と認定してさしつかえないものと考えます。私どもは今後もさらに日本国内での2人の足取りや関係者の割り出しなどの努力を行ってまいります。北朝鮮にいたことが確実である以上、救う会としても寺越昭二さん、外雄さん、武志さん、福留貴美子さん、小住健蔵さん、田中実さんらと同様拉致被害者のリストに加えていただき、政府に対しても拉致認定を求めていただきたくお願い申し上げます。

2人の状況などについては3月30日の全国協議会幹事会に提出した通りですが念のため概略を別紙の通り添付します。

敬具

(別紙)加藤久美子さん、古川了子さんについて

加藤久美子さん(昭和23-1948年生・昭和45-1970年8月8日失踪)

・朝、妹と一緒に北九州市の家を出て10分くらい離れた旧西鉄路面電車の大倉電停で別れる。その後消息不明。いつも通りの服装であった。週末に編み物の先生とお茶会に行くので着物を出しておいてという話をしていた。

<安氏のコメント>

1988～90年、金正日政治軍事大学内で横田めぐみさんと一緒にいた女性だと確信する。当時年齢が30代中盤以後に見え、パーマをかけていて特別な印象の着衣はなかったと記憶している。

それより正確に言えば当時彼女達を見たとき写真の女性よりは横田めぐみさんにより関心があり、彼女だけを見ていたので写真の女性については特別な関心はなかった。しかし横田めぐみさんに関心を持って眺めるとき十余回も横田めぐみさんと並んで座って話をしていたのが記憶に残っている。当時彼女は158センチ以下の身長だったと記憶している。彼女の職業はもちろん横田めぐみさんをはじめとする大学内の他の日本人と同様で対日工作員に日本語を教える日本語教官だった。

古川了子さん（昭和30-1955年1月1日生・昭和48-1973年7月7日失踪）

・当日午前中に美容院に行って午後から母親と浴衣を買いに行く予定をしていた。了子さんは母親が知らない間に家を出ていたが、美容院に了子さんからTELがあり『今日の美容院はキャンセルしたい出かけることができましたのでうちの母親に浴衣を買いに行けなくなると伝えて下さい』と言った。それ以来行方不明。平成14年12月6日、姉の竹下珠路さんが訪韓し安明進氏と面会。安氏は竹下さんを見て自分の見た女性が古川さんであるとの確信を強めた。

<当時の状況について昨年12月に安氏から聴取した内容>

1991年の9月ごろ、時間は5～6時頃だったと記憶している。当時自分は915病院に入院していた。915病院とは朝鮮労働党作戦部に所属する病院で、工作人員や被拉致者などの治療をするだけでなく、麻薬や毒薬の製造や改良も行うところである。敷地の中には100～150の施設があった。場所は平壤北方、順安空港から平壤市内に向かう道から1キロも離れていない。

安氏はこの日、退屈なので練習用の通信器材を持ってきて練習しようと、約6キロ離れた学校（金正日政治軍事大学）まで歩いて行った。途中病院の道を通っていくと見つかる可能性があると思い、道のないところを通って行った。そこから通常の道を渡って政治軍事大学の方に行こうとしたとき、木の陰にいた古川さんと思われる女性に見られた。あとで通報されるといけないと思い、通報しないように頼もうと思って後ろをつけて行って声をかけた。向き合っていたのは5分位だったと記憶している。自分の言葉にうなずいたりしていたが、朝鮮語を理解していないようにも見えた。自分が姿を記憶していたのは金正日政治軍事大学にいたのがほとんど男性で、女性に対しては関心が強かったから。

その女性は入院患者が着る服を着ていた。病院の夕食時間は7～8時だから、おそらく中央病棟に治療に来た帰りではないかと思う。食堂は共通だが食べる場所は厳格に区別されており、お互いが顔を合わせることはない。日本人のいた病棟と自分のいた病棟の距離は200～300メートルで、建物は見えたが人は見えなかった。道は大きく迂回して通っていた。後で看護婦に聞いたら、彼女が日本人で、胃潰瘍で入院していると言っていた。日本人化のための教員であれば、学生に普段接しているから対応にはなれているはずだが、そうは見えなかった。北朝鮮では60年代から70年代にかけて、「日本革命」をめざしたことがあり、「日本人村」を作ったことがあった。そこにいたのかも知れない。

<<<<<<<調査会ニュース>>>>>>>>(2003.7.29)

報道関係各位 明日の記者会見について

明日 30 日の記者会見は予定通り午後 2 時から東京港区の友愛会館 1 階 A 会議室で行います。

これに先立ち午後 1 時からリストなどの資料を記者会見場で配付します。また、同時にメールニュースにて資料を流します(ただし、メールニュースは不特定多数に届くためご家族の連絡先は省略します)。

なお、今回第 4 次リストとして発表するのは 21 人(一部の方に 22 人とお伝えしましたが数え間違いで、実際には 21 人です)。その中には去る 7 月 22 日に神戸で救う会兵庫が行った記者会見の折り発表した金田竜光さんと、北朝鮮関係者によって殺害されたとみられている渡辺秀子さんの長女高敬美さん、長男高剛君も含まれています。また、現段階での調査の概況も発表する予定です。

<<<<<<<調査会ニュース>>>>>>>(2003.7.30)

第4次失踪者リスト

第4次のリストを発表します。正式公開は本日午後2時です。それまで報道はお控えください。

ファイルは下記のところからダウンロード願います(省略)。

<<<<<<<調査会ニュース>>>>>>>(2003.8.1)

リストの一部修正について

先日発表した第4次の失踪者リストで高敬美さんの読み方を「こう たかみ」としていましたが「こう きよみ」の誤りでした。おわびして訂正します。

イルカの話

去る4月下旬、島根県・鳥取県沖で潜水艦らしき物体が発見されました。地元ではニュースになったようですが、当局は「イルカ」だとして潜水艦説を否定したそうです。もちろん、本当にそうならそれでいいのですが、安明進氏は現在船の科学館（東京）に展示されている工作船のことについて語る中で「工作船が射撃されたのだから次は絶対潜水艦を使うはず」と言っています。ともかくすべての可能性を考えていて欲しいというのが正直なところです。

このこと自体は調査会の活動と直接関係ありませんが、新たなことが分かりましたらお知らせします。

5月30日 第3次リスト 62名を公開

7月30日 第4次リスト 21名を公開

(この時点で公開 165名、非公開 191名、合計 356名)

その他

調査活動

失踪者家族に対する情報提供などのフォロー

失踪者家族宛郵送ニュース(概ね1号/1カ月)

調査会メールニュース(平均1号/1週間)

他

8、活動の成果

拉致の可能性が高いと調査会が認定した失踪者

加藤久美子 救う会として対応が決定

古川了子 同上

松本京子 救う会へ調査会から要請を予定

金田竜光 同上

高敬美 同上

高剛 同上

9、今後の活動 調査活動・情報収集の強化による拉致全体像の一刻も早い究明

<<<<<<<調査会ニュース>>>>>>>(2003.8.6)

安村文夫さんに関する朝鮮語のピラを作成しました

昭和 52 (1977) 年 9 月に失踪した安村文夫 (尹文夫) さんを探す朝鮮語のピラを作成しました。在日 (朝鮮籍) の方ですので拉致であったとしても日本人被害者と別ルートで情報が得られる可能性があると思われるためです。下記のアドレスからダウンロードできます (PDF) ので、脱北者、帰国者関係で情報が得られる方はご協力いただけると幸いです。 http://www.asahi-net.or.jp/?lj7k-ark/Yun_Yasumura.pdf (約 1 メガバイト)

<<<<<<<調査会ニュース>>>>>>>(2003.9.17)

第5次リストの発表など

次の要領で失踪者第5次リストの発表及び記者会見を行いたいと思います。関係各位にはご協力をよろしくお願い申し上げます。

第5次リスト発表 9月24日(水)

12時メールニュース送信開始、13時頃から資料配付、写真公開
(場所等詳しくは別途ニュースで流します)

記者会見 9月25日(水) 13:30～14:30 於：友愛会館

内容 (1) 9.17から1年間、調査会設立後8ヶ月の会としての概括
拉致の全体像等調査を通じて明らかになったことについて
(2) 前日発表したリストについての補足
(3) その他

<<<<<<<<調査会ニュース>>>>>>>>(2003.9.19)

来週の予定について

既にお知らせした失踪者第5次リストの発表及び記者会見について、下記の通り行います。関係各位にはご協力をよろしくお願い申し上げます。

9月24日(水)

失踪者第5次リスト(約10名)及び1次から4次まで発表した失踪者の中で拉致可能性の高いと思われるケースの一部に関する発表

12時メールニュース送信開始、13時頃から資料配付、写真公開(於調査会事務所)
メールニュースで流す資料はご家族の連絡先を抜いてあります。報道関係の方などで連絡先の必要な方は事前にメールにてご連絡いただければ、連絡先を入れたものをメールニュースと並行して流します。

9月25日(水) 記者会見 13:30～14:30 於:友愛会館1階A会議室(港区芝)

内容 (1) 9.17から1年間、調査会設立後8ヶ月の会としての概括

拉致の全体像等調査を通じて明らかになったことについて

- (2) 前日発表した拉致可能性の高い事件及び5次リストについての補足
- (3) その他

<<<<<<<<調査会ニュース>>>>>>>>(2003.9.24)

失踪者第5次リスト・拉致の可能性の高い失踪者のリストの発表について

特定失踪者問題調査会では本日、失踪者リストの第5次発表（従来と同じ「拉致の可能性が完全には排除できないリスト」・通称ゼロ番台リスト）と拉致の可能性が高いと思われる失踪者のリスト（通称1000番台リスト）の発表を行いました。ゼロ番台リストは添付ファイル（Excelで作成したタブ区切りテキストファイル）です。1000番台リストについては下記の通りです。二つのリストが一緒に出ますので分かりにくい点があるかと思いますが、後者は7月30日の第4次発表のときに合わせて発表した6人と同じ扱いになります。

北朝鮮による拉致事件の疑いが濃いと思われる失踪者

（1000番台リスト・平成15年9月24日発表）

特定失踪者問題調査会

現在調査会には360人を超える失踪者のリストがあり、うちこれまで拉致の疑いが濃いと発表した失踪者は加藤久美子さん・古川了子さん、高敬美さん、高剛さん、金田竜光さん、松本京子さんの6名です。今回これに次の方々を加えます。調査会ではリストに入れた失踪者（公開非公開を問わず）には登録順の通し番号を付けてきましたが、拉致の疑いが濃いとした方々はこの番号に1000を足しています。混乱を避けるため、これまでの「失踪者」リストに非公開者を加えたものを「ゼロ番台リスト」、拉致可能性が高いと思われる方々のリストを「1000番台リスト」と通称します。今回「1000番台リスト」に加えるのは以下の方々です。

大屋敷正行さん、大澤孝司さん、国広富子さん、新木章さん、山本美保さん、秋田美輪さん

ただし、調査会の能力からして現状で全てのケースを均等に調べ、順位をつけて可能性の高いものから発表することはできません。したがって「ゼロ番台リスト」の中には今回拉致の疑いが濃いとした6人を含む「1000番台リスト」と同程度ないしより拉致可能性が高いのではないと思われるケースも存在します。調査会では今後これまで同様の「ゼロ番台リスト」の発表可能なところから発表していく予定です。

また、私たちは当初新たな拉致の証拠となるものを見つけていくことを目標として調査を行いました。多くの事件が長期間を経ているため、警察と同様のやり方で新たな証拠を見つけることは極めて困難であると認めざるを得ません。また、その警察自体、10件15人のうち主体的に拉致を明らかにしたのが久米裕さんだけであり、その久米さんの事件も事実上封印してしまったという現実があります。この活動は拉致をされている北朝鮮が長期的かつ極めて広範囲に拉致を行っているという前提のもと、総合的な見地から判断して参ります。今回の6人についても同様です。なお、山本美保さんと秋田美輪さんの拉致については対象選定の段階もふくめ何らかの関係があるものと推定されます。

今回発表した6人に関するメモ（敬称略）

大屋敷正行（おおやしき まさゆき）

生年月日：1952.12.5

失踪時期：1969.7.27

失踪場所：静岡県沼津市大瀬崎海岸

当時の住所：東京都江戸川区

当時の身分：高校2年生

状況：友達7～8人と大瀬崎海岸へ海水浴に行く。夜中にトイレに行くとき外へ出たまま戻らず。枕元に腕時計、財布、免許証など残したまま。家出や自殺の理由がなく、楽しい高校生活を送っている矢先のことだった。

本人の特徴：身長165～168センチ、やせ型、色弱、温厚で素直、おとなしい性格。髪はくせ毛でぼさぼさした感じ。優しくいつもほほえんでいる感じ。写真を撮るときは歯がちらりと見える。自分の気持ちをはっきり人に伝えたり、すすんで新しいことに挑戦するタイプではなかった。卓球部に所属し、強い方だった。運動神経はとてもよかったようだ。目は良くなかった。

大澤孝司（おおさわ たかし）

生年月日：1946.6.21

失踪時期：1974.2.24

失踪場所：新潟県佐渡郡新穂村

当時の住所：新潟県佐渡郡新穂村

当時の身分：新潟県佐渡農地事務所勤務（昭和47年9月から）

それ以前は小出の農地事務所に勤務（3年3カ月）

状況：自宅独身寮から約400メートル離れた飲食店で夕食を済ませ、知人宅に寄った後行方不明。当時事務所には50～60人が勤務、うち15～20人程度が本土から単身赴任で来ていた。失踪時期は観光はオフシーズンだった。そのため最も忙しい時期に拉致された曾我さんと違い警察もかなり大規模に捜査してくれた。小出の事務所では失踪してからまもなく「あれは北朝鮮にやられたのではないか」との話でもちきりになったが、やがてびたりと止んだという。

元の同僚の話「失踪の2～3日前一緒に船で新潟から帰ってきた。船中では飲む話、食べる話などをしていて自殺や失踪のそぶりはまったくなかった。マッチは寮の前あたりに落ちていたとのこと」

国広富子（くにひろ とみこ）

生年月日：1952.2.9

失踪時期：1976.8.2

失踪場所：山口県宇部市の自宅付近

当時の住所：宇部市笹山15区笹山アパート

当時の身分：看護婦

状況：母親にたばこを買いに行くのを頼まれ、300 円のみを持って夜 8 時半頃家を出てそれきり消息不明。新しい病院に勤務し始めたばかり。

本人の特徴：152 センチ、48 キロ、左こめかみから頬にかけうす茶色のあざ（化粧で隠れるほど）

新木章（あらかき あきら）

生年月日：1947.10.16

失踪時期：1977.5.21

失踪場所：埼玉県川口市の自宅を出たまま行方不明。

当時の住所：川口市

当時の身分：銀行員（オンライン化の担当）

状況：家を出るとき「午後 6 時か 7 時には帰る」と言って出かけた。財布しか持っていない。財布には免許証、クレジットカードが入っていたが、更新がされていないし、カードは使っていない。

本人の特徴：中肉中背、眼鏡使用、当時黄色のチェックのシャツにジャケット着用。

山本美保（やまもと みほ）

生年月日：1964.3.3

失踪時期：1984.6.4

失踪場所：山梨県甲府市の自宅を出て以来消息不明

当時の住所：山梨県甲府市

当時の身分：大学受験生

状況：図書館に行くと言って出かけたまま消息不明に。バイクは甲府駅前に放置されていた。失踪 4 日後、新潟県柏崎市荒浜海岸にセカンドバックが落ちていたとの連絡（本人のものと確認）。失踪半年後の 11 月 6 日から無言電話が 4 年半ほど続く。無言電話はほとんど数秒で切れるものだったが、失踪から 3 年 4 ヶ月後と 3 年 6 カ月後の 2 回の電話は 10 ~ 15 分ほど続き、相手はじっと聞いている様子だった。3 年 6 カ月後の電話はすすり泣くような声が聞かれた。

本人の特徴：身長 160 センチ、体重 51 キロ。左目の下に 3 針縫った跡。左手にしもやけの軽いケロイド。靴のサイズ 23.5 センチ。

秋田美輪（あきた みわ）

生年月日：1964.1.25

失踪時期：1985.12.4

失踪場所：兵庫県神戸市の大学校門

当時の住所：兵庫県川西市

当時の住所：大学 4 年生（国文科）

状況：大学で午前の授業を受けた後、1 時過ぎに学食で友人と食事をとり校門近くで友人と別れた。夜 8 時過ぎに友人宅へ泊まるとの電話が家にある（実際には泊まっていない）。翌日朝 8 時 15 分兵庫県警城之崎署から竹野町弁天浜で本人のバッグ発見と

の連絡。当時は自殺とされたが、何も見つかっていない。バックの置いてあったところから海岸に 10 メートル位足跡があった。発見される前に雨が降ったがバックも近くにあった本人の靴も濡れていなかったという。地形や潮の流れから入水自殺であれば遺体が上がるはず、竹野浜、竹野駅、城崎駅で目撃者がいなかった、残されていた急行券に不審な点がある。その急行券とは、大阪駅発行で、和田山駅まで 150 キロが有効範囲だった。遺留品が見つかった浜の最寄りである竹野駅まで 40 キロも離れている。竹野へ行くには和田山で乗り換えなければならない。時間的に乗車した可能性の高い「丹波 3 号」は城崎に、「だいせん 3 号」は城崎・竹野に停車する。また当時の急行料金は 150 キロまでが 900 円、200 キロまでが 1000 円で、100 円の違いしかない。遺留品には 18000 円の現金があり不自然。また、急行券にはパンチ跡、検札跡がない。このように不審な遺留品があったにも関わらず 2 日で捜査が打ち切られ入水自殺とされ、警察の初動ミスが疑われる。

本人の特徴：身長 155 センチ、体重 43 キロ、両眼とも眼鏡をかけて 1.2。

記者会見

9 月 25 日（木） 13:30 ~ 14:30 於：友愛会館 1 階 A 会議室（港区芝）

- 内容 (1) 9.17 から 1 年間、調査会設立後 8 ヶ月の会としての概括
拉致の全体像等調査を通じて明らかになったことについて
(2) 前日発表した拉致可能性の高い事件及び 5 次リストについての補足
(3) その他

失踪者第 5 次リストの訂正

お送りしたリストの中で富山県屋木しのぶさんにつき、失踪時期の記載が昭和 44(1969)年となっていましたが 43 年の誤りでした。お詫びして訂正します。

昭和 41 年 3 月	地元の高校を卒業
同年 4 月	東京の美容学校入学
昭和 42 年 3 月	同校卒業
同年 4 月	東京の美容院に勤務
同年 10 月頃	入善に戻り地元美容院に勤務
昭和 43 年 1 月中旬	失踪（5 次リストで昭和 44 年 1 月 18 日と発表していますが、関係者によって若干日にちに違いがありますので中旬としておきます）

前にお送りしたニュース 39 号及び 40 号で一部に文字化け及び読めないなどのトラブルが起きました。ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

必要な方はメールをいただければ返信でお送りしますのでご連絡下さい。

調査会では本日記者会見を行い、以下の文書を発表します。

現時点における拉致問題の全体像に関する見解

小泉総理の訪朝から1年が経過した。この間政府未認定者であった曾我ひとみさんの拉致が明らかになったことで政府認定者以外の拉致に関する関心が高まり、とりわけ原因不明の失踪をした家族を持つ人々が多数警察や内閣府支援室、そして救う会へと問い合わせをするようになった。これに対処するため、1月に私たちの調査会が設立され、微力ではあるが、これまで8カ月にわたって調査を続けてきた。私たちのところにご家族から調査依頼が寄せられた失踪者は310人余、独自に情報を収集した事件が約50人、あわせて360人余にのぼる。これらのケースを概観した中間報告は去る7月30日の記者会見ですでに発表済みだが、9.17から1年経たのを期に拉致の全体像について見解を明らかにし、各位のご協力を求める次第である。

北朝鮮による日本人拉致は昭和28(1953)年の朝鮮戦争休戦後、長期にわたって行われており、今後も行われる可能性がある。調査会にある失踪事件の中で拉致可能性が強いと思われる事件も時期・場所の両面で広範に分布している。韓国人の拉致が朝鮮戦争中の83000人をはじめ直近で平成12(2000)年まで行われていることから分かるように、北朝鮮にとって拉致は通常の行為であり、一時期特定の目的だけで行われたものではない。日本人の拉致被害者総数がどれほどかは未だ明らかではないが、少なくとも100人を下ることはないと思われる。その理由は次のようなものである。

- ・ 4次までの失踪者165人の発表で、報道関係をはじめとする各方面のご協力にもかかわらず、本人が日本国内にいることが確認できたのは2名に過ぎず、大多数は新たな情報すら寄せられていない。
- ・ 当初拉致の可能性が薄いと思われた事件ですら調査にともないその疑惑を深めざるを得ないケースがあり、逆に絶対に拉致ではないと確信をもてるケースはほとんどない。
- ・ 同時期に同様の(例えば高校生、若い女性、カップルなど)失踪が集中しているケースや同じ高校・大学の卒業生・在学生の失踪などがいくつも見られ、また、共通の偽装工作と思われる手口も見られる。
- ・ 当然ながら、ご家族が拉致を疑いながら調査会に調査依頼をしないケースも少なくないと思われ、また、原勅晁さん、久米裕さん、田中実さん、金田竜光さんのように家族親族との関係が希薄な人を標的にした拉致も相当数あると考えられる。これらは当然リストには入ってこない。

長期的かつ広範囲に自国民を多数拉致されたことから考えるとき、北朝鮮による拉致はテロというより「低烈度の戦争」とも言えるものであり、北朝鮮の国家目標が変わっていない現状からしてそれは今も続いているはずである。おそらくはこの現状を知っていたであろうわが国の歴代政権がなぜこのような大規模かつ悪質な主権侵害を放置してきたのか

はまだ不明だが、少なくとも今後放置し続けることは許されない。「人道問題」という言葉でこの問題の本質を国民の目から隠すことがあってはならないのである。また、日本国民のみならず、朝鮮総連系をふくめ相当数の在日韓国・朝鮮人もいわゆる「帰国事業」とは別に拉致をされている可能性があり、この問題もけっして無視されるべきではない。

言うまでもなく、拉致事件の解決には全ての拉致被害者の帰国が前提である。これは現在政府が認定している未帰国被害者 10 名にとどまるものでないことは言うまでもない。偽計によって自分の意志で北朝鮮に入り出られなくなった人まで含めて、すべての人の現状を回復するということである。また、拉致の中には前述のように、周囲との関係が希薄な人がねらわれ拉致されたケースも相当数あると推定され、その場合は北朝鮮の中に入って調査及び救出を行う以外の方法はない。

以上のような状況から考えた場合、証拠を固めて立件するという警察の通常のやりかたにのみ依拠した対応では大多数の拉致事件を解明することはできない。そもそも、10 件 15 人のうち警察の主体的捜査によって明らかになったのは久米裕さんの事件だけであり、その事件すら実行犯逮捕という石川県警の功績は封印されてしまっている。したがって大部分の事件は北朝鮮にとって「運悪く」発覚した、氷山の一角と言っても過言ではない。

また、失踪事件のほとんど全てが事件当初北朝鮮による拉致を疑われていなかったためにその方面の捜査がなされておらず、なおかつ多くの事件がすでに長期間を経て事件によっては関係者の記憶すら不確かになってしまっている。

したがって、警察が拉致と認めることを前提とし、外務省の交渉によって北朝鮮側に帰国を求めるといった現状の対応が今後も続けば大多数の拉致被害者は北朝鮮でその生命を終わてしまわねばならない。拉致問題の解決のためには日本国が独裁国家に奪われた国民を奪還するという意志を明確に示し、実行することが必要不可欠である。それは政治家や官僚のみに任せておける問題ではない。救出の責任は私たち国民すべてに存在する。そしてその実現は日本人拉致被害者のみならず在日韓国・朝鮮人拉致被害者や韓国人拉致被害者の救出にも、在日朝鮮人帰国者の人権擁護にもつながり、さらには独裁体制の下で苦しむ大多数の北朝鮮国民の救援にも大きく貢献する。各位のご協力を切にお願いする次第である。

平成 15 年 9 月 25 日
特定失踪者問題調査会代表 荒木和博

< 付記 >

今後調査会として、拉致の疑いが濃いと発表したケースをはじめ失踪者のご家族に対するフォローを強化する。

2 月に内閣府支援室・警察庁・海上保安庁・公安調査庁に対し要請を行い、4 機関に外務省も含めた回答を同月末受け取っているが、今後は邦人保護等の観点から防衛庁も含め政府の積極的対応を求めていく。

<<<<<<<<<調査会ニュース Vol.43>>>>>>>>(2003.10.4)

法律家の会がシンポジウム

調査会とともに特定失踪者問題を中心に精力的に活動を行っている「北朝鮮による拉致被害者を救出する法律家の会」(木村晋介・藤野義昭共同代表)では以下の通り東京でシンポジウムを開催します。予約制ではありませんが会場の関係もあり、ご参加希望の方はできるだけ事務局である齋藤健児弁護士の事務所(03-3253-8138)までご連絡下さい。

「10.29 シンポジウム 北朝鮮による人権侵害・拉致と強制収容所を考える！」

日時：10月29日(水) 午後6時～午後8時45分

場所：弁護士会館5階会議室502号

(地下鉄丸ノ内線霞が関駅B1出口すぐ・日比谷線霞が関駅A1出口3分・千代田線霞が関駅C1出口3分・有楽町線桜田門駅5番出口5分)

講師(敬称略)

櫻井よしこ(ジャーナリスト)

横田滋(家族会代表)

姜哲煥(北朝鮮からの亡命者・政治犯収容所体験者)

荒木和博(調査会代表)

<報道関係各位>

上記法律家の会主催シンポジウムにあたり下記の通り記者会見を行います。取材方よろしくお願ひ申し上げます。

日時：10月22日(水)午後1時から

場所：弁護士会館5階会議室508AB

内容：翌週のシンポジウムについて他

(法律家の会が記者会見を行うのはこれが初めてです)

お問い合わせは上記齋藤弁護士事務所まで

<<<<<<<調査会ニュース Vol.44>>>>>>>>(2003.10.12)

松本京子さんの新情報に関する記者会見について

昭和 52 年に米子市から拉致された松本京子さんに関する情報について、次の通り記者会見を行います。

日時 平成 15 年 10 月 14 日 13:30 ~

場所 福祉保険総合センター・ふれあいの里

鳥取県米子市錦町 1-139-3

TEL 0859-23-5491

参加者 松本孟さん（松本京子さんのお兄さん）

妹原仁・調査会理事

お問い合わせは妹原理事（090-4697-6197）までお願いします。

内閣府に要請 9 月下旬の発表内容について

9 月 24 日の発表及び 25 日の記者会見に関して以下の様に政府に要請を行います。

1、日時 10 月 15 日（水）15:00 から

2、場所 内閣府拉致被害者・家族支援室

代表荒木・専務理事真鍋等調査会役員が文書を持参して要請します。

<報道各位>

要請の内容についての報告等は要請終了後ぶら下がりで行います。

法律家の会記者会見について

10 月 22 日の記者会見に先立ち、12:30 ~ 12:55 の間昼休み時間にあわせて法律家の会では東京地方裁判所前で集会に関するピラマキを行います。横田滋家族会代表も参加の予定です。

宣伝活動終了後、予定通り 13:00 から弁護士会館 5 階会議室 508AB にて記者会見を行います。

ご協力をお願い もしも調べられる方がおられましたら

先週荒木が調査で青森に入った折り、次のような話を聞きました。

「昭和 47 年頃の、確か朝日だったと思うが新聞の記事にこの時期新潟以北の日本海側で 60 人位が一斉にいなくなった報道されたことがあった。切り抜きをしたのだが今どこにあるか分からない」

他紙もふくめこのような記事をご覧になった覚えのある方はご連絡いただくと幸いです。

国民の安全を守るための情報機関を一刻も早く設置していただきたくお願い申し上げます。

- 2、同様に解決にあたって現在の外交交渉だけでは、特に政府認定者以外の拉致被害者救出は不可能です。経済制裁はもちろんですが、軍事面でもテロや暴発を絶対に許さないという、断固たる姿勢を示し北朝鮮に圧力をかけていただくよう求めます。特に、北朝鮮内部でクーデター等により政権崩壊などの状況になった場合、拉致被害者の身辺は最も危険になります。このとき邦人救出の立場から行動できるのは自衛隊しかありません。そもそも、身寄りのない拉致被害者は北朝鮮に行って探す以外に救出はできません。状況に応じて迅速に自衛隊を派遣し、拉致被害者を救出できるよう、対応をお願い致します。

なお、勝手ながら別紙文書を防衛庁に伝達して下さいますようお願い申し上げます。

以上

< 防衛庁宛要請文書 >

平成 15 年 10 月 15 日

防衛庁長官 石破茂様

特定失踪者問題調査会代表 荒木和博

拉致被害者救出に関するお願い

平素のご活躍に心より敬意を表します。

私共は本年 1 月に「北朝鮮に拉致された日本人を救出するための全国協議会」から分離し設立された団体で、北朝鮮に拉致された可能性のある失踪者を調査し、拉致の全体像を明らかにするための活動をしています。

設立以来 9 カ月が過ぎましたが、この調査を通じて政府認定の 10 件 15 人どころではない、少なくとも 100 人を下らない拉致被害者がいることを確信するに至りました。時期も半世紀近くの間継続的に、場所も鳥取など日本海側はもちろん、太平洋側でも内陸でも起きており、また今後も起きる可能性があります。これはもはやテロなどという表現を通り越して低烈度の戦争とも言えるものです。

なぜ政府がこれをかくも長い間放置してきたのかは不明ですが、ともかくこの人たちすべての救出は今のような警察による認定と外務省の日朝交渉での提議というルートのみでできることではなく、最終的には軍事力が必要です。これは最も切実な意味では金正日体制崩壊の混乱のときの邦人保護も含まれます。様々な障害があることは十分に承知しておりますが、このようなときに行けるのが自衛隊だけであることは明らかであります。すでに自衛隊では北朝鮮のミサイルや特殊部隊に対する対応を進めておられますが、更に進んでこの部分でも早急に準備を整えて下さいますよう、心よりお願い申し上げます。

以上

<<<<<<<<調査会ニュース Vol.48>>>>>>>(2003.10.24)

調査会に家族支援委員会設置

特定失踪者問題調査会では昨日(23日)理事会を開催し、同日付で特定失踪者家族支援委員会を設置、失踪者家族のフォロー体制を強化していくこととなりました。当面は調査会が拉致の疑いが濃いとした家族の政府認定を求める行動などを中心に活動を進める予定です。

これは救う会全国協議会の幹事会で調査会が発表した失踪者の家族に関するフォローは拉致の疑いが濃いと判断された後も継続して調査会で行っていく旨了解されたことに基づくものです。委員長には真鍋貞樹専務理事、事務局長には杉野正治常務理事が就任し、荒木代表が総括、常務理事、理事全員が委員として参加します。

なお、体制強化のため、これまでの理事を常務理事とし、新たに理事を任命することになりました。

法律家の会がシンポジウム

調査会とともに特定失踪者問題を中心に精力的に活動を行っている「北朝鮮による拉致被害者を救出する法律家の会」(木村晋介・藤野義昭共同代表)では以下の通り東京でシンポジウムを開催します。予約制ではありませんが会場の関係もあり、ご参加希望の方はできるだけ事務局長である斎藤健児弁護士の事務所(03-3253-8138)までご連絡下さい。

「10.29 シンポジウム 北朝鮮による人権侵害・拉致と強制収容所を考える！」

日時：10月29日(水) 午後6時～午後8時45分

場所：弁護士会館5階会議室502号

(地下鉄丸ノ内線霞が関駅B1出口すぐ・日比谷線霞が関駅A1出口3分・千代田線霞が関駅C1出口3分・有楽町線桜田門駅5番出口5分)

講師(敬称略)

櫻井よしこ(ジャーナリスト)

横田滋(家族会代表)

姜哲煥(北朝鮮からの亡命者・政治犯収容所体験者)

荒木和博(調査会代表)

この集会は法律家の会が初めて行う公開イベントです。日弁連会長も挨拶にこられる予定です。

<<<<<<<調査会ニュース Vol.49>>>>>>>>(2003.11.7)

失踪者ポスター（第3版）作成

これまで公開された180名の方についてのデータと写真を掲載したポスター第3版（第2版と同じA2の大きさ）ができました。ご入り用の方は恐縮ですが、1枚100円×枚数分の切手を同封して調査会宛ご送付いただくと幸いです。50枚以上ご入り用の場合はお手数ですが現金書留ないし郵便振替（00160-9-583587 特定失踪者問題調査会）にてお送りください。送料は枚数にかかわらずこちらで負担します。自治体、労働組合など各種の組織でも個人でも、一枚でも多く展開していただきたく願います。

北朝鮮工作活動のルーツ（？）映画「陸軍中野学校」

この六月に発刊されて話題を呼んだ本に『金正日の料理人』（藤本健二著・扶桑社）があります。著者は拉致ではなく、請われて北朝鮮に渡り、金正日の料理人となった人物。その中で、著者が金正日の前でピストルの射撃をする場面が出てきます。うまく的に当てると金正日は「この中野ヤー！」と言ったそうです。「中野」は陸軍中野学校の意味で、しかもおそらくそれは1960年代中盤、一世を風靡した市川雷蔵主演の大映映画「陸軍中野学校」シリーズからイメージしたもののようです。

金正日が北朝鮮の工作機関を完全に掌握するのは1975年10月。しかし金正日にはそれまで軍の経験もなければ工作活動の経験もありませんでした。父親金日成はソ連で工作活動などを行う部隊にいたから真似事程度はできたかも知れませんが、金正日の経歴にはそれにあたるものが存在しないのです。そうすると考えられるのは本人の最も得意とする映画ということになります。実際工作員などでこの映画を北朝鮮で見せられた人もいたようです。

この映画は5作全部がビデオになっていますので興味のある方はさがしてみてください。第2作「陸軍中野学校・雲1号指令」では村松英子さん扮する某国工作員が姿を消した日本人に成り代わる、いわゆる「背乗り」まで出てきます。ただし、中野学校で学生が叩き込まれた情報戦の真髄は「誠」であるという部分は北朝鮮ではきれいさっぱり無くなっているわけで、都合のいいところだけつまみ食いしたということでしょう。まあ、映画を手本にしてやってきた工作活動に振り回されてきたと考えると情けなくなりますが。（荒木和博）

<<<<<<<<調査会ニュース Vol.50>>>>>>>>(2003.11.13)

秋田美輪さんのご両親、兵庫県警に告発

昭和 60 年 12 月 4 日に失踪し、本調査会が拉致の疑いが濃いとして（1000 番台リスト）発表した兵庫県の秋田美輪さんについて、本日ご両親が法律家の会藤原精吾弁護士を代理人として兵庫県警に告発を行ないました。告発状は以下の通りです。

告発状

2003 年 11 月 13 日

兵庫県警察本部

本部長 巽 高英 殿

徳島市北常三島町 1 - 1 1

告発人 秋田正一郎

同所

告発人 秋田嶺子

650-0025 神戸市中央区相生町 1 - 2 - 1 東成ビル 4 階

あいおい法律事務所

告発代理人 弁護士 藤原精吾

住所及び居所 不明

被告発人 某

告発の趣旨

被告発人を刑法第 226 条（国外移送目的略取誘拐）の罪で直ちに捜査の上、厳重処罰することを求める。

1、告訴にかかる犯罪事実

被告発人は国内外の協力者と共謀の上、1985 年（昭和 60 年）12 月 4 日頃、兵庫県内において、当時神戸松蔭女子大学文学部国文学科 4 年生であった告発人らの二女秋田美輪（昭和 39 年 1 月 25 日生まれ）を国外移送目的をもって略取誘拐し、密かに日本から北朝鮮国内に移送し、現在に至っているものである。

2、関連する事実

(1) 秋田美輪の失踪時の状況

秋田美輪（昭和 39 年 1 月 25 日生まれ。以下美輪という。）は告発人らの二女であり、当時兵庫県川西市湯山台 1 - 2 3 - 6 に住んでいた。同人は当時神戸市灘区にある神戸松蔭女子大学文学部国文学科 4 年生として在籍し、自宅から通学していた。

1985 年（昭和 60 年）12 月 4 日、自宅から大学に出かけ、午前中英語の授業を受け、1 時過ぎに友人と大学食堂で食事をとった後、校門近くで親しい友人である K（告発状は本名記載、以下同）に、「ケーキを食べに行かない？」と誘ったが、同人にはたまたま別の予定があったので、大学正門で同人と別れた。

その夜午後8時過ぎ、自宅の母に「Kさん宅に泊まる」との電話があった。

翌12月5日朝、兵庫県城崎郡竹野町竹野の弁天浜海岸で、美輪のバッグと靴が発見されたとの電話が城崎警察署から自宅に入った。電話は午前8時15分頃であった。

警察では入水自殺した可能性が強いと見てヘリコプター、漁船、ダイバーを投入して捜索したが、遺体は発見されなかった。

警察の捜索は2日間行なわれたが、結局「自殺」として打ち切られた。

(2) 自殺とは考え難い理由

a) 失踪当時の美輪には、自殺を動機付ける事情が一切存在しないばかりか、家族および親しい友人からみて、自殺の兆候と解しうる言動は全く窺われなかった。

逆に、美輪は大学のロッカーに1,2日後提出する予定のレポートをのこしており、12月4日午前には大学の授業を受け、昼食後親友にはケーキを食べに行かないかと誘っている。

また、大学当局によると、失踪まで美輪の出席状況は良く、また成績も優秀であった。

b) バッグ等の遺留品の発見された弁天浜は、入江になっており、もし入水自殺したのであれば、遺体は間違いなく発見される。潮流の関係で遺体は浜に上るか、湾外に流れ出したとしても1週間程度後には丹後半島に流れ着くはずである。

c) 12月初旬は日本海岸の波浪は高く、前日夜は神戸で雨が降ったというのに、バッグと靴は濡れた様子がなかった。

d) 12月4日夜から5日の早朝にかけて付近住民に美輪を目撃した者はいなかった。山陰線竹野駅から弁天浜までは3キロメートル以上の距離があり、海水浴客のいない冬場に、美輪が夜の竹野町を一人で歩いて行ったならば目撃者が居て当然である。

e) 残されていたバッグ内には手帳、定期券などと共に・12月4日大阪駅発の150

キロメートルまでの急行券、・現金1万8千円が残されていた。

・この急行券で行けるのは、和田山までの距離であり、竹野までの200キロ券との差額は100円しかない。かつ検札を受けた痕跡が皆無であった。

・十分な額の現金を所持していたのであるから、竹野で夜を明かすのに民宿に泊まることは可能であったがその事実はない。

・4日の夜8時頃、自宅の母親に友人のKさんの所に泊めてもらうとの電話があったが、友人はこれを否定しており、美輪がうそをついたことになるが、電話の背後には騒音もなく、シーンとしていた。

以上a)ないしe)の事実は、美輪が自らの意思で竹野に行ったのではないことを強く示唆する。また、所持品のみが弁天浜にあったものとする、なおのこと第三者の存在が推定される。

(3) 拉致の可能性が高いと考える理由

a) 地域的・時期的特徴

北朝鮮政府関係者ないし関係機関による日本人拉致事件は、特定失踪者問題調査会で公式に確認されただけでも10件を超え、拉致の可能性のある失踪者の数は300件を

超す。その中でも拉致の疑いが濃厚とされる者が12名あり、美輪はこれに含まれる。その理由は、・失踪の状況が他の拉致事案と類似していること、・偽装工作のあった場所が過去に1度ならず北朝鮮の工作員の不法入国事件が発生した地域であること、
・時期的に見て拉致事件が頻発していた年代にあたること、・拉致疑惑のある多数のケースに照らし、美輪の年齢・性別が拉致対象者となる蓋然性を有すること。
・自殺の動機がなく、また自ら失踪する動機もないこと。

3、告発に至った理由

美輪の両親である告発人らは当初より美輪の失踪が自殺によるものとは考えられなかった。しかし警察は早くも12月5日には「入水自殺」と判断して新聞に発表している。遺体も上らないのに死亡したとは信じられず、告発人らは毎年捜索願いを更新してきた。

昨年来、北朝鮮による拉致事件が社会の注目を浴び、告発人は関係者の協力を得て失踪時の状況を改めて調査したところ、上記の理由に加えてさらに次のような事実が判明した。

- ・ 1959年9月29日兵庫県浜坂町で、密入国し活動していた金俊英（日本名川上崇弘）が浜坂海岸で帰国のため工作船を待っていたところを逮捕した。（浜坂事件）
- ・ 1962年10月16日兵庫県香住町余部海岸から朴基華が潜入
- ・ 1970年4月14日、兵庫县城崎郡竹野町猫崎（弁天浜隣接地）の東1.8キロ付近で無灯火で航行している不審船を巡視船が発見し、停戦を命じたところ、時速20ノットで北方に逃走した。巡視船は300メートルまで接近し、写真撮影したところ、不審船から自動小銃で連射された。（不審船発砲事件）
- ・ 1974年9月19日 竹野町切浜海岸（弁天浜の隣接地）で北朝鮮工作員、威国上及び李庸煥の両名を逮捕した。（切浜事件）
- ・ 1980年6月12日 同町香住海岸で工作船を待機中の李基吾と黄博を逮捕（磯の松島事件）

失踪当時、所轄の城崎警察署では、バッグ内にあった前記急行券に不審を抱くこともなく、また所持していた診察券についても何の捜査も行なっていなかったことが判明している。

すなわち、当時の警察は、美輪の失踪を単なる自殺案件と即断し、拉致事件としての疑いをもって捜査することがなかった。ところが、現地付近において、過去5度にわたる北朝鮮工作員関連の事件が発生しているのであり、これらと失踪との関連性を解明すべきであったのである。

4、結語

21歳の美輪が忽然と消えた時以来、両親である告発人らは片時も美輪のことを忘れたことはない。美輪は北朝鮮に拉致されたと考えるべき十分な根拠がある。拉致誘拐は重大犯罪であり、かつ犯人が国外に逃れているなら時効は進行しない。何よりも、拉致

による人権侵害の状態は現在もなお継続しているのである。従って日本国政府と警察は、事件を解明し、早急に被害の回復を図るべき責務を有する。

以上のような次第で、告発人らは北朝鮮政府関係者に拉致されたと信ずべき多数の根拠を有するところ、警察当局において、あらためてその有する情報と捜査能力を駆使して美輪を拉致誘拐した犯人の捜査を行なうことを求めるために告発に及んだものである。

証拠方法

- 1、失踪時の所持品 写真
- 2、昭和 60 年 12 月 6 日付サンケイ新聞記事
添付書類
 - 1) 証拠書類
 - 2) 委任状

失踪者ポスターの展開にご協力を

前のニュースでもお知らせしましたが 失踪者ポスター（第 3 版、前と同じ A 2 の大きさ）ができました。ご入り用の方は恐縮ですが、1 枚 100 円×枚数分の切手を同封して調査会宛ご送付いただけると幸いです。50 枚以上ご入り用の場合はお手数ですが現金書留ないし郵便振替（00160-9-583587 特定失踪者問題調査会）にてお送りください。送料は枚数にかかわらずこちらで負担します。自治体、労働組合など各種の組織でも個人でも、一枚でも多く展開していただきたくお願いします。

<<<<<<<調査会ニュース Vol.52>>>>>>>(2003.11.19-2)

報道関係各位 11月21日の日程変更について

先程ニュースで流した21日金曜の日程について、発表後に同日2時から拉致議連の総会があることが分かりました。調査会役員もこれに参加する必要があるため、以下のように変更させていただきます。お手数をおかけしますが何卒よろしくお願い申し上げます。

記者会見 15時30分頃から 衆議院第一議員会館第一会議室

(拉致議連総会終了後プリーフィングがありますので、それが終わり次第行ないます。若干時間が前後する可能性がありますのでご注意ください)

国会内の通行証のない報道関係者については第1議員会館入り口で通行証をお渡しします。

内容等については前に流した通りです。なお、ゼロ番台第6次リスト及び1000番台第3次リストは21日当日朝メールニュースで流します。これには連絡先は入りませんので、取材等で連絡先がご入り用の場合は当日調査会にご連絡の上FAXでお受け取り下さい。

<<<<<<<調査会ニュース Vol.53>>>>>>>(2003.11.20)

報道関係各位 リストの発表について

明日 21 日のゼロ番台 6 次リスト及び 1000 番台 3 次リスト発表ですが、次のように行ないますのでよろしくお願ひ申し上げます。

午前 10 時～ 調査会事務所にてデータ公開（資料配付及び写真掲示）

午後 3 時半～ 記者会見（衆議院第一議員会館第一会議室）

拉致議連総会後のブリーフィングが終わった後になりますので時間は若干前後する可能性があります。

このときも資料配付、写真掲示を行ないます。

この記者会見開始をもってデータの解禁とします。

通行証のない方には議員会館入り口で担当者が通行証をお渡しします。

リストとして発表していく予定です。

今回発表した 1000 番台リスト 4 人に関するメモ（敬称略）

水島 慎一（みずしま しんいち）

生年月日：1949.4.24

失踪時期：1968.2.9

失踪場所：富山県下新川郡朝日町宮崎海岸

当時の住所：富山県下新川郡朝日町

当時の身分：泊高校普通科 3 年生

状況：失踪した日卒業前の期末試験の最終日。昼頃帰宅し、自宅裏の海岸にバットの素振りをしてくると言ってお出かけたまま行方不明。就職は決まっていた。夕方海岸にバットが転がっていたのが発見される。当日はべた凧。水島さんは遠泳の名手で溺れた可能性はない。

本人の特徴：身長 165 センチ、体重 75 キロ、がっちりした体格、野球部キャプテンで腕力には自信があった、右利き

斉藤 裕（さいとう ひろし）

生年月日：1950.9.17

失踪時期：1968.12.1

失踪場所：北海道稚内市

当時の住所：北海道稚内市

当時の身分：稚内商業高校機械科 3 年生

状況：当日夜 7 時頃、4 キロくらい離れた友人の女性宅を訪ねたが不在だったので、また来ると告げて出て、浜の方へ下りていったまま消息不明。当日、+ 8 度、晴天、積雪 0。当時の服装は、タートルネック、下は学生ズボン、サンダル履き。大阪の会社に就職が決まっていた。

本人の特徴：身長 160 センチ、やせ型（小柄）腕に火傷痕（左右は不明）、盲腸の手術跡

今井 裕（いまい ゆたか）

生年月日：1950.12.20

失踪時期：1969.3.2

失踪場所：青森県弘前市

当時の住所：青森県弘前市

当時の身分：弘前工業高校 3 年生

状況：3 月 4 日の卒業式で答辞を読むことになっていた。夕方タートルネックに着替え制服のボタンを買いに行きそのまま行方不明に。東京の会社に就職が決まっていた。

本人の特徴：身長 170 センチ位、体重 62 ~ 3 キロ。右の頬に子供の時木に登ってついた傷が残る。眼鏡着用

佐々木 悦子（ささき えつこ）

生年月日：1963.12.6

失踪時期：1991.4.22

失踪場所：埼玉県浦和市（当時）の自宅を出たまま行方不明。

当時の住所：埼玉県浦和市

当時の身分：銀行員（パート）

状況：出勤すると言って家を出たが、当日は休みをとっていた。そのまま失踪し、以後情報なし。佐々木さんについては亡命者の目撃情報がある。この情報自体はまだ確認できていないが調査会としては関心を持っている。

本人の特徴：身長 162 センチ、体重 52 キロ、頭髪は背中くらいまで長め、左目の下に泣きぼくろあり、両手共ふっくらとしているが指先が細い。

< 斉藤裕さん及び佐々木悦子さんについての目撃証言 >

亡命者権革氏は斉藤さんと佐々木さんの両方を、金国石氏は斉藤さんを目撃したと証言しています。二人の目撃情報は未確認であり、あくまで参考情報として考慮していますが、概要は次の通りです。

権革氏の証言

（斉藤裕さんについて）

この人と初めて出会ったのは 1978 年 5 月。私（権氏）は 57 軍校の 9 大隊に所属する中尉だった。当時 57 軍校は黄海北道谷山郡にあり、そこで彼（斉藤さん）が日本の風習を教えていた。階級は大尉で、所属は 57 軍校チョンボン邑にある指導部だと思う。79 年には泰川の軍官学校で日本語の教官もしていた。身長は 170cm ほどだった。

（佐々木悦子さんについて）

悦子さんを見かけたのは 1994 年 6 月。平壤市の東大院区三馬洞にある 5454 部隊の本庁舎の通信局の一室で、日本からの電波の解析をしていた。6 m ほど離れたところから見た。その後、運動場でも見かけた。当時の語学参謀長が、美人で頭の良い女性がいるから会ってみないかと紹介してくれたので顔を覚えている。

金国石氏の証言（斉藤裕さんについて）

1990 年 7 月～ 1992 年 8 月の間に在学していたマドンヒ偵察大学で 10 回以上見ている。当時生徒は皆日本人だと知っていた。教官の中ではただ 1 人北朝鮮軍の軍服を着ていた。友人から聞いたところでは運動神経が良かったという。

<<<<<<<<調査会ニュース Vol.55>>>>>>>>(2003.11.25)

報道関係各位 27日取材の対応について

27日の特定失踪者家族の政府・拉致議連への要請に関する取材は次のようにさせていただきます。各位には何卒よろしくお願い申し上げます。

午前10時から12時 調査会からご家族への説明、意見交換（港区芝、友愛会館会議室）

（取材は頭撮りのみ、終了後直ぐに移動しますのでぶら下がりも対応できません）

終了後タクシーで内閣府に移動

13時から13時40分頃 内閣府拉致被害者・家族支援室に要請

（取材は内閣府建物の出入りのみで、支援室には入れません。終了後直ぐに参議院議員会館に徒歩で移動しますのでぶら下がりも対応できません）

14時から15時迄 参議院議員会館会議室で議連役員へ要請

（取材は頭撮りのみ）

15時から16時迄 同室で記者懇談（会見）

終了後解散

このような政府要請は初めてのため、報道関係の対応がどの程度になるのか想像できませんのでカメラの台数の制限等は特に設けませんが各位には節度ある取材をよろしくお願い申し上げます。

地方議会での請願陳情にご協力をお願いします

以下の文章は特定失踪者問題に関する地方議会への請願陳情文書のモデルです。このニュースをごらんの方で各地の議会に請願陳情を出すことの出来る方はぜひご協力下さい。また、提出・採択された場合は調査会までご連絡いただけると幸いです。

「政府未認定とされている北朝鮮による拉致事件の真相究明と早期の原状回復を求める意見書提出」についての陳情（請願）

1、陳情の要旨

市議会として政府関係機関に対して「政府未認定とされている北朝鮮による拉致事件の真相究明と被害者の早期原状回復を求める意見書提出」の意見書の送付を宜しくお願い致します。

2、陳情の理由

衝撃的な日朝首脳会談から一年が経過しましたが昨年首脳会談の中で北朝鮮側は以前から日本側が求めていた拉致被害者の安否確認に応じました。

その安否確認の中で驚くべき事実が明らかになりました。それは日本政府が安否確認を求めていた以外の菅我ひとみさんが含まれていたことです。

その後救う会や現在拉致の疑いのある失踪者の調査を行っている特定失踪調査会には11月末日現在ご家族からの問合せ約330名を含め380人もの調査対象失踪者のリストがあります。現在は警察等の関係機関も捜査に動き始め、さらに韓国に亡命した北朝鮮政府関係者などの脱北者などの目撃証言も寄せられています。

国民の安全と人権を守る観点からも 市議会におきまして、政府未認定とされている
拉致事件の真相究明と被害者の早期原状回復を求める要旨の意見書を政府に提出して下さ
いますよう陳情するものです。

市議会議長 山 男様

平成15年×月×日
川 子

<<<<<<<調査会ニュース Vol.56>>>>>>>(2003.11.26)

55号後半の請願陳情文書モデルは救う会神奈川の川添友幸事務局長から神奈川県逗子市議会に提出されたものを一部直したものです。

<報道関係各位>

27日午後の内閣府への要請の折りの取材ですが、支援室から取材の方は内閣府敷地内には入れない旨連絡がありました。今回それぞれのご家族の上京にあわせてローカルのマスコミが相当数来る可能性があるため、こちらも初めてのことでゆえ慎重に対応せざるを得ません。ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

<<<<<<<調査会ニュース Vol.57>>>>>>>(2003.11.26-2)

< 報道関係各位 >

27 日午後の内閣府への要請について、もう一度変更になり、内閣府建物 1 階での出入りの撮影は可能とのことです。ただし前後の日程がありますのでぶら下がりはできません。ご了承下さい。

今回対象となる 1000 番台リストの失踪者は 15 家族 16 名で、要請に参加するのは現時点で 13 家族 20 名の予定。記者会見にも大部分のご家族は参加されます。内閣府支援室では中山参与、小熊室長らに対応される予定です。

調査会の認定は、捜査当局の認定の手法とは異なり、あくまでも状況証拠を積み重ねたものから総合的に判断するとともに、目撃情報などを加えて判断するに至ったものである。つまり、「拉致以外の可能性が全くない」ケースと判断したものである。このように、調査会の認定の手法は、警察当局などの物証を積み重ねていく手法とは異なるのである。しかしながら、「拉致」という極めて巧妙かつ時間的経過が経った犯罪行為を認定していく手法としては、本人が脱出するか亡命者からの正確な情報がもたらされない限り、この手段しか存在しないのである。

よって、政府におかれては、こうした「拉致の疑いが濃い」と認定した方々など、調査会に届けられたリストをはじめとした拉致の可能性のある失踪者について、再捜査もしくは再調査をされ、失踪の全容解明に努めるよう、強く要請するものである。

要請事項

1. 政府関係当局において、本調査会が「拉致の疑いが濃い」と認定した事案など、拉致の可能性のある失踪事件について、速やかに再捜査・再調査をされたい。
2. 再捜査・再調査の結果を、ご家族はもとより、可能な限り国民に公開されたい。
3. 再捜査・再調査の結果、「拉致」と政府が認定するに至った場合には、速やかに日朝交渉の俎上にのぼらせること。
4. 調査と並行し、朝鮮半島における緊急時に備え、邦人保護の立場からの救出のための準備を進めること。

以上

< 拉致議連宛要請書 >

特定失踪者に関する要請書

平成 15 年 11 月 27 日

北朝鮮に拉致された日本人を
早期に救出するために行動する議員連盟
会長 平沼赳夫殿

特定失踪者問題調査会
代表 荒木和博
特定失踪者問題調査会家族支援委員会
委員長 真鍋貞樹

要請趣旨

特定失踪者問題調査会(以下、調査会)では、現在、16 名の方を「拉致の疑いが濃い」として発表した(詳細は別紙参照)。今後の調査の結果次第では、さらに「拉致の疑いが濃い」方が増えていくことが予見されています。

調査会の認定は、捜査当局の認定の手法とは異なり、あくまでも状況証拠を積み重ねたものから総合的に判断するとともに、目撃情報などを加えて判断するに至ったものです。

つまり、「拉致以外の可能性が全くない」ケースと判断したものです。このように、調査会の認定の手法は、警察当局などの物証を積み重ねていく手法とは異なるのです。しかしながら、「拉致」という極めて巧妙かつ時間的経過が経った犯罪行為を認定していく手法としては、本人が脱出するか亡命者からの正確な情報がもたらされない限り、この手段しか存在しないのです。

よって、「拉致議連」におかれましては、政府に対して、こうした「拉致の疑いが濃い」と認定した方々など、調査会に届けられたリストをはじめとした拉致の可能性のある失踪者について、再捜査もしくは再調査をされ、失踪の全容解明に努めるよう、強く働きかけるよう要請致します。

要請事項

1. 政府関係当局において、本調査会が「拉致の疑いが濃い」と認定した事案など、拉致の可能性のある失踪事件について、速やかに再捜査・再調査をされるよう働きかけてください。
2. 再捜査・再調査の結果を、ご家族はもとより、可能な限り国民に公開されるよう働きかけてください。
3. 再捜査・再調査の結果、「拉致」と政府が認定するに至った場合には、速やかに日朝交渉の俎上にのぼらせるよう働きかけてください。
4. 調査と並行し、朝鮮半島における緊急時に備え、邦人保護の立場からの救出のための準備を進めるよう働きかけてください。

以上

<<<<<<<調査会ニュース Vol.59>>>>>>>(2003.12.6)

訃報

昭和 51 年 8 月 2 日に失踪し、調査会が拉致の疑い濃厚としている山口県宇部市の国広富子さんのお母さん、久保保子さんが昨日逝去されました。享年 76 才。お母さんは最後まで富子さんのことを心配しておられました。再会を実現できなかったことを申し訳なく思います。

お通夜、告別式の日取りは次の通りです。

お通夜 7 日午後 5 時から

告別式 8 日午前 11 時から

会場 宇部葬典社（宇部市松山町 1-7-9 0836-31-0004）

喪主 国広文彦様（ご子息）

<<<<<<<<調査会ニュース Vol.61>>>>>>>(2003.12.22)

秋田美輪さんの学籍回復

先週金曜（19日）に当調査会岡田理事に連絡が入ったところでは、神戸松蔭女子大4回生当時の昭和60年に拉致された秋田美輪さんに関し、大学では同日付けで学籍を回復すると決定したとのこと。一刻も早く秋田さんが校門をくぐる日が来ることを期待しています。

大澤孝司さん、山本美保さん家族政府に署名提出

昭和49年佐渡から拉致された大澤孝司さんと昭和59年甲府で拉致され後に柏崎でバツクの発見された山本美保さんの家族がそれぞれの地域で集めた署名を次の予定で政府に提出します。

12月25日（木）13:00 於内閣府拉致被害者・家族支援室

支援室は小熊室長が対応予定（中山参与は未定）

大澤さん側はお兄さん2名と小島晴則・新潟救う会代表をはじめ支援者合計3名）

山本さん側はお母さん、妹さん夫妻および山下滋夫・調査会理事はじめ支援者3名です。調査会代表荒木も同行します。

（報道関係各位）

取材は今回は内閣府のロビーでの撮影と会議室内での署名手交（頭撮り）ができます。取材される方は当日12:50までに内閣府においての上、支援室担当者の指示に従ってください。その他の詳細については支援室にお問い合わせください。

<<<<<<<調査会ニュース Vol.62>>>>>>>(2003.12.25)

大澤孝司さん、山本美保さん家族政府に署名提出

昭和 49 年佐渡から拉致された大澤孝司さんと昭和 59 年甲府で拉致され後に柏崎でバッグが発見された山本美保さんの家族がそれぞれの地域で集めた署名を本日二五日午後 1 時内閣府拉致被害者・家族支援室に届け小熊室長に要請を行いました。

12 月 25 日 (木) 13:00 於内閣府拉致被害者・家族支援室

要請を行ったのが大澤さん側はお兄さんの昭一さん、茂樹さんと小島晴則・新潟救う会代表ら支援者の方々、山本さん側はお母さんの文子さん、妹さんの森本美砂さん、美砂さんのご主人の森本直行さんおよび山下滋夫・調査会理事はじめ支援者の方々です。代表荒木、常務理事杉野らも同行しました。

提出された署名は大澤さんの側が 22813 人分、山本さん側が 125500 人分、合計 148313 人分でした。要請文書の内容は以下の通り。

(大澤さんの要請文)

内閣官房参与 中山恭子様

要請書

「特定失踪者問題調査会」が 9 月 25 日に「拉致濃厚」と「認定」した 16 名の一人、大澤孝司(当時 27 歳 新潟県庁職員、昭和 49 年 2 月 24 日佐渡新穂村で失踪)について新潟県警に於いても「北朝鮮による拉致容疑濃厚」の線で再捜査続行中と承っております。

事件発生からすでに 30 年です。家族は父 福一郎(93 歳)の元気なうちに救いたい一念で全力を尽くしております。

今春 3 月、地元の「巻町文化会館」で、救う会佐藤勝巳会長を迎え、800 余名が集い、「救出」を誓い、来春 3 月同会場で調査会、荒木代表、家族会横田代表らを招き「第 2 回集会」を予定しています。

どうか「救出の念願」が一日も早く実現しますように、此処に「嘆願署名」22・823 名分を提出し、お願い申し上げます。

平成 15 年 12 月 25 日

「大澤孝司の家族」 兄 大澤昭一

次兄 大澤茂樹

「大澤孝司さんと再会する会」 代表 川村 保

「大澤孝司さんの同窓代表」 宮崎直樹

横田めぐみさん等拉致日本人救出新潟の会 会長 小島晴則

(山本さんの要請文 宛て先は総理・外務大臣・関係閣僚・中山内閣官房参与宛で別々のものを渡されましたが内容は同じです)

謹啓

内閣官房参与におかれましては、日頃より「拉致問題」に関しまして、並々ならぬご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、私どもの家族であります山本美保は、19年前に「図書館に行ってくる」と言い残して家を出たまま行方が分からず、昨年来拉致の疑いが持たれております。先日、特定失踪者問題調査会において美保を含む16人の「拉致濃厚」の発表がなされ、政府にたいし「拉致認定」の申請をしていただいたところです。

その節は、大変お忙しいところ、ご対応くださり、ありがとうございました。

過日の北朝鮮に関する六カ国協議におきましては頑なな北朝鮮の態度には抑えきれない怒りも感じるころではありますが、諸国の理解と働きかけにより再度協議を続ける確約を得たことは、大きな前進だと思っております。安易な条件に乗るとなく、確実に問題解決の道筋を進めていって欲しいと切に願っております。

当面の課題は昨年10月に24年ぶりに無事帰国をはたされ、尚ご家族と離れ離れの生活を強いられている蓮池さん、地村さん、曾我さんのご家族が一刻も早く救出されることであり、私どももそれを強く願っております。

しかしながら、私ども未認定の家族としての一番の懸念は、5人の方のご家族が救出された段階で、この拉致問題は終結を迎えてしまうのではないかということです。そうしましたら、美保も含めた370人余りの特定失踪者の問題は、闇の中に葬られてしまうこととなります。

拉致は重大な人権侵害であり、北朝鮮の国家犯罪です。相手がどんな国であれ、核の脅しなどに屈することなく、人権尊重を訴え、国際世論の力を借りて正攻法で戦えるはずだと思います。安易に国交正常化に踏み切ることなく、全ての拉致された人々が無事救出されるまで、ねばり強い交渉を続けてほしいと思います。

どうか、拉致問題と同様に特定失踪者の問題も同じ事案として深く心に留めていただき、その真相と所在が明らかにされるまで、国の責任においてねばり強く対応してくださいませようをお願いいたします。

韓国においても五百人近い拉致被害者がいるといわれ、家族も含めて今尚くるしんでおります。日本と韓国が連携し毅然とした態度で、拉致問題の全面解決に迫る体勢を作っていただきたいと思っております。

さらに、難しい国際ルールもあるかとは思いますが、日本の警察、または国際警察が北朝鮮に入り捜査することはできないのでしょうか。どうか、家族の切なる気持ちを御汲みいただき、実現に向けてご尽力いただけますようよろしくお願い申し上げます。

この難しい問題に取り組んでいくに当たっては、家族も自らの生活や仕事を犠牲にしているのが現実です。先日、拉致濃厚といわれた方の家族が集まった際やはり生活の維持ができるかという

思いは、共通の不安事項でした。将来、問題の長期化の中で、活動と生活維持の両立ができるかという不安は常につきまとい苦しんでおります。

拉致被害者及び特定失踪者の家族に対して社会全体のご理解とご支援がいただける環境作りにお力添えいただきたいとおもいます。全体解決のメドが立っていない今、家族救出の運動を長期的に続けていくためのバックアップ態勢を是非とも作っていただけますよう、せつをお願い申し上げます。

今年のはじめ病床に倒れた美保の父親が、あと一年と宣告された時、焦りとともにもしかしたら一目だけでも間に合うかもしれないという一縷の希望を持ち続けました。しかしながら、急速に進んだ病状は、その望みさえも無残に打ち砕き、五月父親は帰らぬ人となってしまいました。

先日も拉致濃厚の方の妹さんとお会いし、共に姉の再開めざしてがんばりましょうとはげましあった矢先、そのお母様が亡くなりました。

無念でどうしようもありません。

ご理解いただいているとは思いますが、私たち家族は年老いていく親の年齢を止めることはできません。あまりに時間がないのです。

何とぞ、家族の心情をご理解いただき、一刻も早い救出の実現のために、お力添えをいただけますよう、切にお願い申し上げます。

敬具

平成十五年十二月二十五日

内閣官房参与 中山恭子殿

山梨県甲府市長松寺町十二-十四

山本 文子(母)

森本 美砂(妹)